【ふくだいプレス】

fukudai Press

54

2025.08

独創性×協調性への挑戦

未来をよくする
お鐵だい。

鉄骨・橋梁・水門
Okamoto オカモト鐵工株式会社
〒910-0142 福井市上森田1丁目102-2 TEL.0776-56-1155 ㈹ FAX.0776-56-3858

CONTENTS

4 特集
地域共創STEAMラボに潜入してみた

6 研究・教育者ファイル
[File79] 教育学部 山次 俊介 教授
[File80] 医学部 松木 悠佳 教授
[File81] 工学部 鈴木 啓悟 准教授
[File82] 国際地域マネジメント研究科 能化 正樹 特命教授

10 青は藍より出でて
注目の福大生を紹介

12 Fukudai NEWS & TOPICS

14 こちら学生広報室 No.016
6つのストーリーをご紹介!
留学してみてどう思う?

16 60秒大学研究室

17 学びのバトン
荻野 知佳さん
(福井県立嶺北特別支援学校 教諭)

18 学長のアンソロジー 第1回 僕が僕であるために

19 福井大学基金 寄附者ご芳名

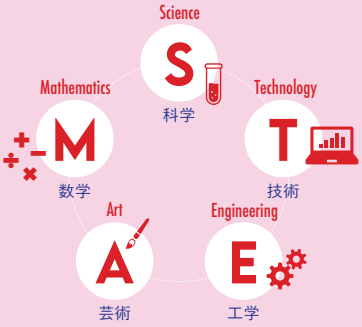
※学年・所属は取材時のものです。

non VOC ink eco UV
FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C013678

STEAM教育とは?

実社会で課題を解決し、新しい価値を創る

これからの時代をよりよく生きるためには、自分で課題を見つけ、さまざまな視点から考え、解決していく力が必要となります。「STEAM教育」は、科学（Science）・技術（Technology）・工学（Engineering）・芸術（Art）・数学（Mathematics）の5つの分野を横断して学ぶことで、新しいアイデアや価値を生み出す力を育てようとする新たな学びのアプローチです。ひとつの専門知識だけでは解決できない問題に、多角的な視点で向き合い、新たな可能性を切り拓く力を養います。



独自の教育モデル「共同主義的STEAM教育」

専門性の掛け算、「頼ること」もスキル

福井大学のSTEAM教育は、異なる特質をもつ他者と「共同」することで、想像を超える価値が生まれるという体験を重視しています。一人ですべての分野を極めるのは困難だからこそ、自身の強みを生かし、他者を信頼し補い合う姿勢が重要になります。こうした「専門性の掛け算」による創造的な学びの実践拠点が、私たちのSTEAMラボです。教育学部の学生に限らず、誰もが共同と創造の楽しさを体感できる場づくりを目指しています。

個性を尊重しながら、共同しよう

2025年度から教育学部に、STEAM教育の新たな必修科目を設けました。日本の教育現場では協調性が重んじられる一方で、独創性の育て方が課題とされています。子どもの創造的な力を引き出しつつ、共同によって新たな価値を生み出す楽しさを伝える授業づくりを目指しています。未来のSTEAM教育を担う教員の育成に加え、全国の教員養成課程への展開も見据えた、先進的かつ実践的教育モデルの構築に取り組んでいます。

トートバッグづくり

パソコンを使って、
トートバッグに入れる
オリジナルのロゴづくり

できた!
インクがすぐに乾くので、
にじみもなし

木製プレートづくり

木製プレートの大きさを決めて、
パソコンでロゴをデザイン

名前や団体名を入れれば、
看板プレートができるよ

異なる科目の教員が共同し、
1年かけてカリキュラムをデザイン。
その過程そのものがSTEAM教育でした!

左から
小林 渓太先生（教育工学）、湊 七雄先生（芸術）
松本 智恵子先生（数学）、白川 晋太郎先生（哲学）

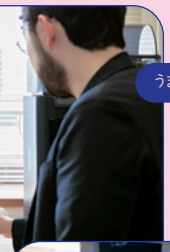
3Dプリンターや缶バッジマシンも備えているらしい…

ラボに潜入してみた

食堂の横に
「学生交流スペース
木立ちの広場」ができたり、
「工学部100周年記念館」
「未来共創テキスタイルセンター」が開館したり、
福井大学構内には
新しいスポットが続々と誕生しています。
この4月には
総合研究棟VI（教育系3号館）1階に、
「地域共創STEAMラボ」がオープン！
なんか、ちょっと面白そう。

教育学部の学生3人が、アイディアをカタチにする実践に挑戦中！

地域共創STEAMラボは、某大手メーカーにあるものづくりのラウンジを参考にして環境を整備。
カッティングマシン、缶バッジマシン、布用印刷プリンター、3Dプリンターなどを備えています。
学生3人はどんなマシンを使って、何をつくっていくのでしょう。



うまく印刷できているかな、ドキドキ

ロゴが決まったら、
データを布用プリンターに送信。
バッグの布をセットして
印刷スタート

缶バッジ
づくり

余白を考えて…、このサイズ感でいいかな

パソコンを使って、
缶バッジに
入れるイラストや
ロゴをデザイン

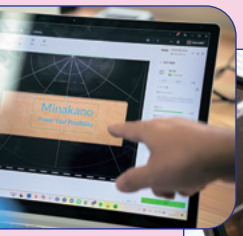
デザインしたシートをカッティングマシンで丸くカット

ガチャン!の瞬間がワクワク

カットしたシートと
無地の缶バッジを
缶バッジマシンに
セットし、プレス

世界でひとつの
缶バッジが完成！

イラストの配置もバッチリ



欧文でロゴをデザイン。
フォントや字間を
調整しよう

木製プレートをマシンにセット。
データどおりレーザーで焼き印を入れ、
全体を指定サイズにカット

全体のサイズ感や
ロゴの感じもイメージどおり

看板プレートが
出来上がり

$a^2+b^2=c^2$

WHAT'S INTERESTING ABOUT STEAM EDUCATION?

STEAM教育、ここが面白い！

STEAM教育って、枠にはまらない自由さが面白い。テーマを決めて、それに向かって工夫していく過程でスキルアップできている感じです。科目によって先生の発想が違うし、それぞれの先生の話を聞いているだけで視野が広がっていきます！

チームでアイディアを出し合って、それをラボにあるマシンを使ってカタチにしていけるのが新鮮です。チームで取り組むと、自分一人では出てこないようなアイディアが出てきて、驚かされることも。これからどんなものをつくるのか、楽しみです！

ぼくは在学中に同期生と起業して、不登校の子どもたちのための教育アプリを開発する教育ITの企業をつくりました。教育現場の困りごとをテクノロジーの力で解決していくという企業価値は、まさにSTEAM教育の発想。来年から大学院で教育工学の知識を深めます。

研究・教育者ファイル File 79

スポーツ科学から介護予防へ

山沢 俊介
YAMAJI Shunsuke
教育学部　教授
（応用健康科学、測定評価）

Profile
石川県出身。2004年9月金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程生命科学専攻修了。1998年4月から2005年3月まで、福井工業高等専門学校講師、2005年から福井大学医学部医学科形態機能医科学講座運動・スポーツ医学領域准教授を経て、2022年より同大教育学部准教授に着任、2025年より現職。

地域で暮らす高齢者のために

私は、高齢者に元気で長生きしてもらう、つまりフレイル予防の研究をしています。その一つが、寝たきりなどのきっかけとなる“転倒”を予防するための日常生活におけるリスク評価、改善プログラムの開発です。例えば、転倒予防には足腰の強さを維持することは重要ですが、それだけではなく、転倒しそうになったときの体を上手に動かしてバランスを回復したり、“とっさの一歩”によって転倒を回避したりする身体機能も改善しなければなりません。これらの機能を評価するテストやエクササイズを追求しています。また、高齢者の認知症予防についても研究しています。私の研究では、軽度認知障害（MCI）の方に身体・認知の両機能を刺激するために色を塗り分けたマットを使って、赤のところだけ踏んでもらったり、記憶した番号どおりにマットを踏んでもらったりするような二重課題（デュアルタスク）のテストの開発を行っています。さらに、運動と認知の両方の機能にかかわる課題としては、高齢ドライバーの問題があります。地方では特に、生活の質を維持するため自動車の運転免許返納が難しい高齢者が多いという、身近で深刻な問題があります。高齢ドライバーは危険察知が遅れたり運転能力を過信したりしがちなのですが、私はそんな特性を運転者みずから認知できるようにした安全運転トレーニングプログラムを開発し、自治体などに提案しました。このような地域社会との連携事業には学生にも参加してもらっています。相手に寄り添い対話を重ねることが重要で、これはこれから社会に出る学生にも必要なことです。

デュアルタスクテストの様子

原点　球児の頃のリハビリ

現在は高齢者に焦点をあてた研究が多いのですが、そもそもは野球少年だった私が高校生の時の交通事故で挫折しかけたときに、熱心な理学療法士に出会い、競技に復帰できたことが原点です。身体機能の回復や向上を科学的にサポートする仕事にあこがれ、まずはスポーツ科学分野に進みました。スポーツトレーナーを目指したこともありましたが、データの分析に基づく研究が面白かったこともあり大学で研究を続けています。地域の高齢化や免許返納は社会の課題ですが、エビデンスに基づくフレイル予防に取り組めていることが今の研究の魅力です。

It's My Favorite!

大学野球にはまっています！学生の勇姿を観戦する楽しみと、運営も・・・

麻酔の科学

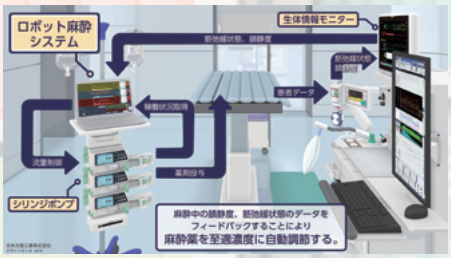
松木悠生
MATSUKI Yuka
医学部　教授
（麻酔・蘇生学）

Profile
福井県出身。2005年、東京女子医科大学医学部卒業。2007年、福井大学医学部附属病院後期臨床研修医、麻酔科蘇生科入局。2009年、同大医学部分子生理学特命教員。2010年、同麻酔・蘇生学助教、2022年、同講師を経て、2025年より現職。

実は未解明　麻酔が効く仕組み

麻酔薬が開発されて200年にもなりますが、未だ麻酔の分子メカニズムは解明されていません。麻酔科医として、基礎から臨床までの研究を紹介します。

近年、麻酔薬の作用標的の一つがイオンチャネルであることが示唆されていますが、単純にイオンチャネルに結合するのではなく、細胞膜中に存在するイオンチャネルが膜と相互作用する中で麻酔薬が複雑に作用します。私は、イオンチャネルがどのような性質を持ったタンパク質なのか関心を抱き、まずイオンチャネルの研究を始めました。私達の研究室の実験系は、目的のイオンチャネルと目的の脂質（膜）を使います。さらに膜の張力や厚さを自由自在に制御することもできます。この方法を使って、麻酔のターゲットと考えられるイオンチャネルを膜に組み込み、チャネルが張力に応答して開閉することを発見しました。麻酔薬が細胞膜の張力に及ぼす影響に着目し、細胞膜の張力変化によるイオンチャネルの効果を調べ、麻酔の作用機序を解明し、より効果的な麻酔薬の開発につながればと思っています。



ロボット麻酔システムの概要図

ロボット麻酔システム

臨床分野で関わった研究は、ロボット麻酔システムの開発です。全身麻酔による手術中は、執刀医とは別に麻酔科医も付きっきりで麻酔管理に当たります。さまざまな診療科の手術に対応するため負担は大きくなりがちで、麻酔科医不足にもつながっています。

私たちの研究チームが開発したのは、患者の状態が安定に推移している状況下で、脳波や筋弛緩のレベルや脈拍などに応じて麻酔薬を投与するなど、麻酔管理の中でも繰り返しや計算を要する部分をコンピューター制御に任せることができるシステムです。麻酔医は負担が軽減されることにより、患者の全身状態の看視に注力できるといった安全性の向上も期待されます。他大学、病院、民間企業との共同研究で、2023年7月に製品化を実現しました。現在、本学医学部附属病院をはじめ、全国10の医療機関で導入・運用が進められています。

It's My Favorite!

野球好きの子どもに付き合い野球場に行っています。炎天下の客席で飲むビールが最高！

研究・教育者ファイル File 01

インフラを守る！

鈴木啓悟

SUZUKI Keigo
工学部　准教授
（土木工学、構造力学）

Profile
埼玉県出身。2006年、東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了。2009年、東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻博士後期課程修了。2009年、東京工業大学助教。2012年、福井大学工学部講師。2018年より現職。

橋を架ける、橋を守る

幼いころ砂場遊びでトンネルばかり作っていました。小学生になると、青函トンネルや瀬戸大橋といった、世界に誇れる巨大インフラが建設されていくニュースにわくわく。そんな私だから土木工学を専攻したのは自然なことでしょう。中でも橋梁の設計を志しましたが、技術開発や基礎工学の研究に取り組んでみると、それが面白くて研究者になりました。ちょうどその頃、日本のインフラは「つくる時代」から、維持補修、長寿命化や耐久力の向上が課題となる「維持する時代」へ移りつつありました。大規模インフラの先進国アメリカでは一足早かったのですが、前の東京オリンピックに合わせ1960年代、飛躍的に整備が進んだ日本の道路網、鉄道などは、今まさにこの問題に直面しています。使用しながら健全度を判別する非破壊検査やモニタリングの技術開発に取り組んでいます。

非破壊検査の次世代技術

橋梁を非破壊で点検するには、従来、目視やハンマーでたたく打音検査が行われてきました。私が研究している新技術は、超音波パルスを構造物に伝播させ、反射波を分析することで、コンクリート内部の空洞や割れ、梁の中に内蔵した高強度鉄筋材の破断などの劣化を把握します。得られたデータを高精度に処理するための手法開発も進めていて、蓄積された土木の知見や技術に加えて、最新のAIを駆使します。人間には識別が難しい微細な振動の変化をAIで分析し、その兆候を土木理論で解釈します。検査機器を簡素化、よりポータブルにする開発もしていて、災害時などに活用しやすいシステムを目指しています。

高強度鉄筋材の破断を検知するための実験中
時には地面に寝転びながらの作業をします

子どものころに憧れたインフラの安全を守る仕事は責任が重いのですが、大きなやりがいがあります。生活を支えるインフラは、正常があたりまえと思われがちです。でも実は、多くの人の日々の努力によって維持されています。研究による貢献にとどまらず、学生への実践的な教育活動や、地域社会と連携するなかで、インフラ保守を利用するみんなが自分ごととして捉えてもらえるよう、そして次世代にも誇れる仕事であるよう、未来につなげていきたいです。

It's My Favorite!

自然や自分と向き合える登山とマラソンが好きです。冬山登山は厳しいですが登り切った時の絶景は最高です。
（荒島岳頂上にて）

「正解のない世界」と向き合う

能化 正樹

NOKE　Masaki
国際地域マネジメント研究科　特命教授
（国際関係論、国際政治学）

Profile
兵庫県出身。1982年、東京大学法学部卒業。外務省に入省。本省やフランス、ジブチなど複数の国の在外公館での勤務を経て、2015年、外務省領事局長。2017年、内閣府国際平和協力本部事務局長。2018年、駐エジプト特命全権大使。2021年、駐スウェーデン特命全権大使。2025年から現職。

外交の“現場”が教えてくれた

最近まで現役の外交官でした。外交官になりたての1980年代、冷戦末期、ソ連のゴルバチョフ書記長がフランスに訪れて臨んだ記者会見に立ち合いました。崩壊に向かっていた東側の混乱、その影響を懸念する西側諸国―緊迫した歴史の転換をまさに現場で実感しました。アフリカのジブチでは、難民の対応に当たり、生まれ育った母国の紛争を逃れてきた彼らから直に話を聞き、目に焼きついたという情景や悲痛な想いに圧倒されました。

外務省本庁で邦人保護を取り仕切る部署の責任者だった2016年には、バングラデシュ・ダッカ襲撃テロが起きました。情報が錯綜する中、犠牲になった日本人のご遺族たちが激しい報道取材に巻き込まれました。プライバシーを守ることと、正しい情報発信を目指すこととのはざまで苦慮した、事件の現地とはまた別の意味の“現場”を体験しました。

このように私は常に“現場に居た”と思っています。外交も、国際政治も、そこに生きる人の立場も感情もさまざまである以上、唯一の正解は存在しない。現場で身をもって得た真実です。だからこそ「何が望ましいか」を考え続け、行動する姿勢が求められるのだと思います。

Photo: Lisa Raihle Rehbäck, Royal Court of Sweden

在スウェーデン日本国大使としての離任に際し、国王陛下に拝謁

プレイヤーからオブザーバーへ

私はこれまで外国と対峙して、我が国の国益を担うプレイヤーでした。しかし大学では、客観的に国際関係を見つめることになり、いわばオブザーバーとなる訳です。外交官としての視点と、これから取り組む研究者としての視点、その両方を踏まえながら、今後はじっくりと国際関係に関わり続けていきたい。とりわけ現場感覚を持っている、スウェーデンや北欧から見た安全保障政策や中東・アフリカ地域の紛争、そして国際平和協力の在り方について学術的に深めていきたいと考えています。

また、国際関係という複雑で常に変化する世界を学生たちが理解する「入口」をつくりたいと考えています。国際法や外交、政治理論や歴史など、さまざまな視点から世界を見ることで、自分自身と国際社会との接点に気づき、考え、関わる力を育んでもらえたらと願っています。

It's My Favorite!

古代エジプトのラムセス2世と小アジア半島に興った強国・ヒッタイトとの間で結ばれた世界最古の平和条約。エジプトのカルナック神殿に刻まれたそのヒエログリフを自分なりに読み解いています。

青（あお）は藍（あい）より出（い）でて

青は藍より出でて、藍より青し――荀子『勧学』からの成語です。
荀子は、修養を積むこと（徳性を磨き、人格を高める）で、青は藍より青くなると説いています。
福井大学のメインカラーは折しも「青」。
藍より出でしみなさんの修養を、自薦・他薦にこだわらず、ここに紹介していきます。

「青は藍より出でて」に出ていただける方を募集しています。

自薦他薦は問いません。応募者氏名・所属・学年・連絡先、推薦する人の氏名・所属・学年・推薦理由を明記しE-mailで申込みください。後日、広報課から連絡します。

E-mail　sskoho-k@ad.u-fukui.ac.jp

ひとり親家庭のより所になれるように

医学部 医学科4年
洞雞（どうけい） 真人さん（東大寺学園高等学校 出身）

母子家庭で育ち、経済的な困難を経験した洞雞さんは、同じような境遇にある家庭を支援するため、NPO団体「YORIDO（ヨーリドー）」を立ち上げました。

SNSを活用し、ひとり親家庭に向けて行政や民間の支援制度をわかりやすく紹介。さらに寄附を募って食糧支援や福祉イベント、子ども向けの塾の運営など、寄り添った支援を提供しています。

洞雞さんの原点には、ひとり親で育ててくれた母の存在があります。忙しさの中で、美容や娯楽を楽しむ余裕がなかった母の姿を見てきたからこそ、育児や仕事を一生懸命頑張っているお母さんたちに安らげる時間を届けたいと考え、福井市内のエステサロンと協力してシングルマザーを対象にした美容イベントを開催しました。

「自分は大学に進学できたけれど、経済的な理由で進学を諦める、あるいは最初から選択肢にないという家庭もある」と語る洞雞さん。

行政の支援は、あくまで衣食住といった生活の基盤が中心。対して「YORIDO」は、その先の“心の豊かさ”を大切にした支援を目指しています。現場の声を素早く受け止め柔軟に動けるのは民間団体だからこそ。今後も「YORIDO」は、ひとり親家庭に寄り添いながら、よりよい社会の実現に向けて歩み続けます。

本学発学生ベンチャーで教育課題に挑む
―生成AIで子どもたちの多様な学びを支える「ミナカノ」―

福井大学発教育系スタートアップ
株式会社ミナカノ

教育学部の青木愛一郎さんは、学びの中で、現場教員への過重な負担や人員不足などで、学校の個別最適化学習や外国人児童生徒への対応が不十分であると実感。これらを生成AI技術で解決できないかと工学部の友人たちに相談しました。「幼いころから生成AIに触れて欲しい」という田濃一翔さんの想いとも重なり、彼らとともに教育支援システムを開発し、現在も改良を続けています。

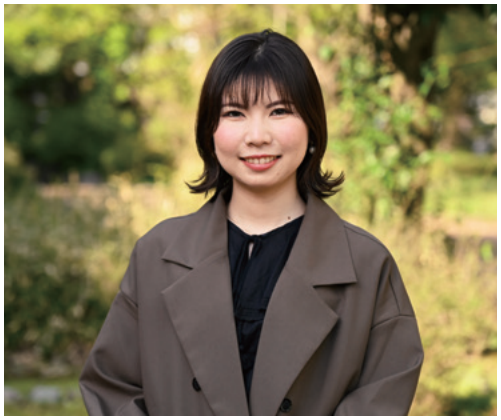
本システムは、AIが教師の役割を担い、子どもたちそれぞれにカスタマイズされた授業を行い、子どもたちがAIに対してアウトプットすることで、学びの定着を図ると同時に、従来のテストに代わる新たな評価のかたちを目指すアプリとなっています。

開発を本格化する中で、2025年5月、「株式会社ミナカノ」（“みんなの可能性を広げる”の意味を込めて）を設立。「子どもたち一人ひとりに合った自由な学びの形を提供し、誰一人取り残さない教育を実現したい」という想いのもと、メンバー全員が、それぞれの専門を生かしながら協力し、これからの教育の可能性に挑戦しています。

左から中橋さん、亀岡さん、青木さん、田濃さん、安倍さん、吉田さん

国際地域学部 国際地域学科3年
大友 里紗さん（福井県立武生高等学校 出身）

高校生に選ぶ力を未来を描くためのコンパス



地域に滞在し、長期の実践型インターンに参加する「地域ベンチャー留学」に参加した大友さんは、和歌山県田辺市で、高校生向けプロジェクト「進路学習con-Path（コンパス）」の立ち上げに携わりました。この取り組みは、大学がない地域の高校生に、進学や将来について多様な選択肢を届けることを目的としたもの。高校生と大学生がオンラインで対話し、進路を考えるきっかけを提供しました。

大友さんは、**地域の課題や高校生の声に耳を傾けながら、企画立案から実施に至るまでを一人で担当。**プロジェクトの大きな特徴は、高校生がさまざまな大学生の話を聞くことで、「進学」だけにとどまらない進路の選択肢を知り、自分で将来を考えられるようになることを目指している点です。イベント後には参加した高校生から「もっと話したい」「勉強の意欲が湧いた」といった感想が多く寄せられました。現在もプロジェクトは継続しています。

活動の原動力は、「福井の外の世界を知って、地元に還元したい」という思い。「人と関わりながら、自分も成長できる場所で働きたい」という大友さんの将来像は、経験の積み重ねとともにしっかりと描かれているようです。

工学部 物質・生命化学科2年
新西 匠さん（北海道立函館中部高等学校 出身）
工学部 建築・都市環境工学科2年
大辻 陽生さん（敦賀気比高等学校 出身）

福井の未来を、自分たちの視点で描く

大学生を対象とした福井県の議員インターンシップ。新西さんと大辻さんはその活動の一環として「未来自治体全国大会」に福井県代表として出場し、全国2位という結果を収めました。大会では、30年後の自分たちのまちのビジョンを思い描き、そのビジョンを実現するための10年後の政策と現実的な予算案を考えます。新西さんと大辻さんらのチームは、水素燃料の自動運転バスを使った人手不足対策や、伝統工芸とエコツーリズムを組み合わせた観光振興策など、交通、観光、エネルギーの3分野から、それぞれの関心や調査結果を生かした提案を行いました。

審査では、政策の具体性と実現可能性、そして将来への希望を感じさせる点が評価されました。北海道出身の新西さんは、福井を“外から”見つめる立場だからこそ、地域の潜在的な課題に気づきやすかったと話します。一方、敦賀出身の大辻さんは、地元で学び育った経験をもとに、地域に根ざした視点でアイデアを形にしました。**異なる立場から見た福井の姿が、互いを補い合い、地域課題への深い理解と的確な提案につながりました。**

「大勢の前でプレゼンをすることで自信がついた」と語る2人。今回の経験は、今後の学びや進路に確かな手応えをもたらしたようです。

工学部 建築・都市環境工学科4年
太田 陸人さん（青森県立弘前中央高等学校 出身）
月輪 尚さん（福井県立藤島高等学校 出身）

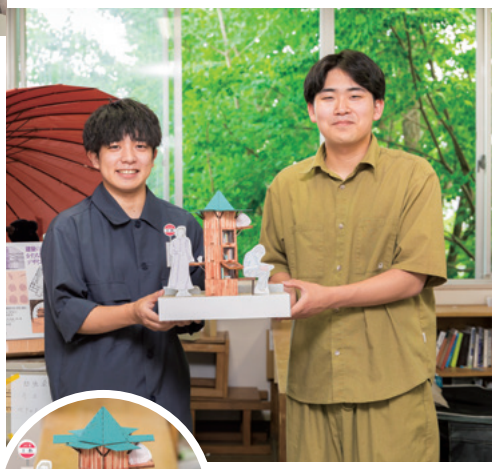
「デザイン創出コンペ」で最優秀賞を受賞しました！

「まちに開かれた本棚で、人と本をもっと自由につなげたい」—そんな思いから生まれたアイデアが見事最優秀賞に輝きました。

フクビ化学工業株式会社が主催する「デザイン創出コンペ」は、同社の木粉樹脂ペレット「フクウッド」を活用した教育施設に備える新たな製品デザインを募るもの。太田さん、月輪さんを中心とする5人のチームが提案したのは、読書スペースにもなる木を模した本棚です。

きっかけは、大学で図書館設計の課題に取り組んだ際、「図書館はまちに閉じられた空間になっていないか」と感じたこと。本棚の外側を六角形で囲うことで、天候に左右されずに屋外で利用することができます。また、この形状により、さまざまな高さに取り付けられた開閉式の扉が椅子や机・物置として機能し、隣り合う利用者同士の関係性を築くといった、本棚を中心とする憩いの場としても成り立ちます。

現在も複数のコンペに向けて制作中という2人。「コンペはどうしてもアイデアの奇抜さに目が向きがちですが、そこを利用する人がいるということを忘れずにいたい。**設計者が利用者の行動を決めるのではなく、利用者が能動的に空間を選べるように、人々の居場所としての可能性を提案するという設計を大切にしたい**」と語ってくれました。



※学年・所属は取材時のものです。

Fukudai NEWS & TOPICS

福井大学の最新ニュースや話題になっていることがまるわかり！

NEWS 1 大学院医学系研究科 看護学専攻博士後期課程を設置

本学は、令和7年度から看護学と異分野融合による「次世代ヘルスケア創生看護学」の研究と教育を進めるため大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程を設置しました。イノベーション創出による次世代医療の実現のため、新しい看護ケア方法の開発や異分野の知見で看護システムの構築を担うことができる人材を養成します。

本博士後期課程は、ＩＣＴ・ロボット・ＡＩなどを利活用しながら、広域ヘルスケアや生涯発達ヘルスケアを統合し、看護研究・実践を行う大学院です。

今後本学は、これらの研究、教育者のトップリーダーを養成し、看護学の発展と国内外の地域社会に貢献することを目指します。

講義風景

NEWS 2 「未来共創テキスタイルセンター」開所式を挙行

経済産業省の「令和４年度産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備）地域貢献型」の交付を受け産学官連携本部の増築棟として整備を進めていた、地域の産学融合拠点「未来共創テキスタイルセンター（産学官連携本部Ⅲ号棟）」が文京キャンパスに完成し、３月６日に開所式を執り行いました。

テープカットの後、出席者は産学官連携本部のコーディネーターの案内で施設を見学。試作室や実験室で研究開発の説明を熱心に聞き入る様子や質問する姿が見られました。

本学産学官連携本部は経済産業省の産学融合拠点創出事業「地域オープンイノベーション拠点選抜制度（J-innovationＨＵＢ）」の認定組織として、本センターを活用しながら、大学発のスタートアップや共同研究をさらに深め、地域貢献型のイノベーションを創出していきます。

NEWS 3 福井大学公開講座

みんなで見つける!?
宇宙のヒミツ！分子のヒミツ！

公開講座「みんなで見つける!?宇宙のヒミツ！分子のヒミツ！」を4月26日に開催しました。

講座では工学部物理工学講座の古石貴裕教授が、コンピュータシミュレーション映像を使って、宇宙と分子の科学ライブショーを行い、マクロ・ミクロの両視点から天文学や物理学をはじめとする最新科学を紹介しました。

参加者からは「宇宙のことを知れて良かった」「実験がおもしろかった」といった感想が寄せられました。

本学の公開講座は、地（知）の拠点としてさまざまなジャンルの講座をご用意しています。詳しくは地域創生推進本部のHP：https://chiiki.ad.u-fukui.ac.jp/course/をご覧ください。

ピックアップ講座［9月～12月開講］その他に9講座を開講予定です

開催日	講座名
9月14日（日）・9月21日（日）・10月 5日（日）	ユネスコ無形文化遺産に登録された日本の発酵食品について学んでみよう（全3回講座）
9月27日（土）	保健所から発信する感染予防・災害対策～「いつも」の備えと「もしも」の備え～
10月18日（土）	親子で学ぶ電波の不思議な世界と無線通信体験
10月25日（土）	ドクターGの「あんな医者、こんな症状の見聞き術」Part２
11月 9日（日）	バロック音楽を知ろう!～ポリフォニー体験＆レクチャーコンサート～

NEWS 4 本学とカナダ・オタワ大学が 医工連携の国際共同研究を開始

5月27日、カナダ・オタワ大学医学部のベンジャミン・ツァン教授が本学を訪問し、福井大―オタワ大の医工連携・国際共同研究の打ち合わせを行い、その後、本学の研究施設などを視察しました。

本学とオタワ大は、医学部の産科婦人科学分野において25年以上にわたる交流の実績を有しており、これまでに学術交流協定および学生交流に関する覚書を締結しています。今年２月には、本学の研究者がオタワ大を訪問し、日加共同研究コンソーシアム「EndOC（Endometriosis-associated Ovarian Cancer）」の立ち上げと、今後の医工連携の活動方針について合意しています。

翌28日には、文京キャンパスにて内木宏延学長、永井崇弘副学長、永井二郎工学部長を、松岡キャンパスにて菊田健一郎医学部長を表敬訪問し、今後の医工連携の学術交流について話し合いが持たれました。

医工連携・国際共同研究の打ち合わせの様子

遠赤外領域開発研究センター
テラヘルツサイエンスの実験施設（写真中央：ツァン教授）

Topics 1

生協 おすすめグルメ

週5 学食界隈 人気No.1

【 オクラ巣ごもり玉子 】

1食当たり

□ エネルギー	94kcal
□ タンパク質	7.8g
□ 脂質	6.4g
□ 炭水化物	3.4g
□ 食塩相当量	0.7g
□ カルシウム	60mg
□ 野菜量	33g

食材中のアレルゲン
卵、小麦、さば、大豆

オクラと温玉のねばねば食感。シンプルながらついつい手が出る定番の味。野菜不足の時にもう一品いかがですか。99円です。

Topics 2

福井大学祭「越祭(こしのさい)2025」開催！

福井大学祭「越祭（こしのさい）2025」が5月25・26日、文京キャンパスで開催されました。今年のテーマは“join us!”。参加者全員で楽しむ大学祭を目指し、県内高校生のステージや福井商業高校チアリーダー部JETS、さらにはお笑い芸人「ザ・マミィ」といったゲストが登場！また、さまざまな模擬店に加え、ミニコンサートやお茶会などの催しも行われ、テーマを体現した活気あふれる2日間となりました。

Topics 3

大阪・関西万博2025に出展

最先端の技術で未来をデザイン

本学は、大阪・関西万博「わたしとみらい、つながるサイエンス展（8/14 ～ 19）」に、着ている服の模様がその場で“描き変わる”体験ができるブース「FUKUMIRA DESIGN FACTORY」を出展します。超臨界二酸化炭素による脱色・染色技術によって、水を使わずに脱色された服に新しい模様が染色される瞬間は、まさに未来のファッション体験！

服が何度でも生まれ変わる社会を一緒に考えてみませんか？

「この星で生きる理由
過去は新しく、
未来はなつかしく」
／佐治 晴夫　著
KTC中央出版　¥1600＋税
発行：2022年9月
「宇宙からの帰還」
／立花 隆　著
中央公論新社　¥860＋税
発行：2020年8月

Topics 4

図書館職員おすすめの一冊

特別な体験を求めて

【この星で生きる理由／宇宙からの帰還】

最近、ベンチャー企業による月面着陸のニュースが話題になっています。そこで今回は、50年以上前に宇宙や月へ行った宇宙飛行士たちへのインタビュー集と宇宙と長年関わってきた研究者によるエッセイ集の2冊を紹介します。月から見た地球の写真を見たことがある方も多いと思いますが、その写真が意味する「宇宙」と「星としての地球」を改めて感じることができます。本を通じて特別な体験をしてみませんか。

6つのストー
留学してみて

福井大学には**海外から約200名の留学生**（4月現在）が在籍し、また、**160名以上の学生が留学**
福井大学に来ている人、福井大学から行った人が留学について

イギリスで行われた日本文化のイベント♪

United Kingdom

イギリス セントラル・ランカシャー大学へ
2023年9月から2学期間留学

国際地域学部 国際地域学科4年
内田 優香さん（福井県立三国高等学校出身）

留学先の大学で、貿易や経営について学んだ内田さん。寮では、異文化のルームメイトの価値観や生活スタイルの違いに驚かされることも。しかし、毎日が賑やかで刺激的だったと話します。

イギリスならではの文化も初体験。紅茶とスコーンを楽しみながら、授業終わりに友人と優雅なアフタヌーンティー、夜は多世代が集うパブで賑やかに過ごすことも。イギリスの友人たちはお酒が強い人が多くて驚いたと話していました。

この留学を通して、「忍耐力」や「やり切る力」が特に鍛えられたと振り返っています。

竹田地区の高齢者と触れ合う竹田Tキャンプ

Malaysia

マレーシア出身
2024年4月から正規留学生

工学部 建築・都市環境工学科2年
シティ アイシャ ビンティ ジャスマディさん

アイシャさんは、福井大の建築・都市環境工学科に国際水準の技術者資格取得を視野に入れたJABEE認定教育プログラムがあることを知り入学。将来はマレーシアでエンジニアを目指すそうです。

長期休暇を利用して坂井市丸岡町竹田地区の高齢者と若者が交流するイベントに参加、マレーシアと竹田の食文化を融合するイベントを企画するなどアクティブな一面も。将来はマレーシアと日本をつなぐような仕事もしてみたいと話しました。

エイさんが留学先に福井大を選んだ理由は、土木と建築の両方の分野があるから。学び続けられる環境があり福井大にきて良かったと感じています。日本の店員さんの接客は、親切丁寧で素晴らしいとのこと。将来は日本で就職し、日本の技術を学んで、それを母国に持ち帰りたいと考えるエイさん。

ミャンマーには伝統的な麺料理「モヒンガー」や有名な遺跡の「バガン」があるので、ぜひ訪れて欲しいと話しました。

Myanmar

ミャンマー連邦共和国出身
2024年4月から正規留学生

工学部 建築・都市環境工学科2年
エイ ウォッ ルア マウンさん

リーをご紹介！

どう思う？

（昨年度）しています。みなさんどんな留学ライフを送っている（た）のでしょうか？
感じたことをリサーチするべく、留学の体験談を聞いてみました。

教えて！ Teacher

留学って何をすればいいの？

クリストファー ヘネシー先生の ONE POINT ADVICE

世界中の何処に留学しても、地域の言葉や文化に積極的に触れましょう。私は日本留学中に日本語の力が伸びましたが、帰国後は日本語に触れる機会が減り、徐々に力が落ちました…。大切なのは、留学後も言語力を維持する方法を考えること。留学はゴールではなく、その経験をどう生かすかが重要です！

国際地域学部　クリストファー ヘネシー先生
アメリカ合衆国出身。日本、オーストラリア、大学院と３回の留学経験があります。本学では、日本語の方言研究を行いながら英語の講義を行っています。

カナダ政府が国家遺産に指定した「ハットレイキャッスル」大学敷地の一部として利用されています

Canada

カナダ ロイヤル・ローズ大学へ
2025年2月から12日間の短期留学

工学部 物質・生命化学科3年
岸上 智香さん（香川県立丸亀高等学校出身）

岸上さんは、大学2年の春休みに友達や家族に勧められて福井大の短期プログラムでカナダに留学。現地の先生とは英語のみの会話でしたが、真摯に向き合い丁寧に教えてくださったとのこと。留学中は自由に質問できる雰囲気が心地よく、中国人の寮生とも仲良くなったそうです。

食事は、カナダの家庭料理のマカロニチーズやプーティンなどを楽しんだ岸上さん。プログラム参加者7人で行動することが多く、特にアイスホッケー観戦が一番の思い出と話しました。

Argentina

アルゼンチン共和国出身
2024年9月来日

研究生（教員研修留学生）
大学院連合教職開発研究科
コダジ パブロ イグナシオさん

パブロさんは福井大で文学や日本の教育制度を研究しています。留学生支援や英語の授業に魅力を感じて福井大に来ました。日本の静かな街並や親切な人の多さに驚いたそうです。留学に際し日本語は約2年半学び、授業や友人の助けで上達を実感しています。

日本とアルゼンチンの違いは、日常の友人関係です。日本は事前に約束して、いつも仲の良い人たちと行動しますが、アルゼンチンはもっと自由で多くの人と気軽に交流するそうです。

マレーシアから福井に来ている仲間たちと

Malaysia

マレーシア出身
2023年4月から正規留学生

工学部 物質・生命化学科3年
フィトラ バシマ ビンティ ズルフィクリさん

フィトラさんは、植物の遺伝子分野の研究が進んでいる日本で学びたいと福井大に来ました。日本は人が優しく、自然がきれいな印象。

授業や実験は日本語で進むので、難しい部分も多いとのことですが、日本で学んだことをマレーシアに帰って紹介し、母国がより先進的な国になるように貢献したいと話しました。

マレーシアには、ココナッツミルクで炊いたご飯とさまざまな具材を添えた「ナシレマ」や酸味と魚介の旨味が効いたスープ麺の「ペナンラクサ」など、美味しい料理があるので、ぜひ味わって！

LET'S STUDY ABROAD

留学は、異文化交流だけでなく、
自分の視野や可能性を広げるチャンスでもあります。
語学の習得はもちろん、現地での出会いや体験は
一生の財産になるはずです。
今、留学を考えているあなたも、
自分らしい留学スタイルをぜひ描いてみてください。
きっと新しい世界が待っているはずです。

60秒 大学研究室

60 seconds Laboratory

大学でよく耳にする研究室。
そこで何をしてるの？覗いてみてね！

卒業生から
在学生のみなさんへ
受け継がれる

学びのバトン

子どもの個性に寄り添って一人ひとりの未来を輝かせたい

福井県立
嶺北特別支援学校
教諭
荻野 知佳さん
OGINO Chika
2021年度
教育学部
学校教育課程初等教育コース
小学校教育サブコース2系卒業

「社会モデル」という視点に衝撃を受け、特別支援教育の道へ

特別な支援を必要とする子どもたちに寄り添い、将来の可能性を広げたい―。教育学部で特別支援教育の授業を受けた時、そんな思いを持ちました。私の兄のこだわりが強い特徴に、一緒に生活している中で「なぜだろう?」と不思議に思うことがありました。講義や演習を通して、何らかの障がいや生きづらさを抱える子どもとの関わり方を知り、自分が兄に対して日々疑問に思っていたことの答えが見つかった気がして、そこから特別支援教育への情熱が高まっていきました。

教育学部では小学校教諭1種と特別支援学校教諭1種、中学校教諭1種家庭科の免許を取得しました。学びの中で、衝撃を受けたのが、特別支援教育の社会モデルという考え方です。障がいのとらえ方には医学モデルと社会モデルの2つがあり、医学モデルは病気など健康状態を原因とする個人の問題という視点。社会モデルは社会環境が障がいの原因と考え、社会全体で障がいをフォローしていくという視点です。私自身、教員を目指す前は、障がいや生きづらさを持つ方に対して、どこか他人事のように感じていました。社会モデルという考え方を知り、周りが変われば生きづらさを抱える子どもに学ぶ楽しさを伝えられる、成長の手助けができると思い、教育の可能性にワクワクしました。

卒業後、1、2年目は小学校の特別支援学級で担任を任されました。通常学級と特別支援学級の子どもが一緒に学ぶ共同学習では、受け持つ子どもに寄り添いながら、その子ができることをひとつずつ増やしていってほしいという思いで過ごしました。3年目からは嶺北特別支援学校に赴任し、子どもたちの個性と向き合いながら一緒に成長していっている感覚です。最初は失敗することもあります。そんな時は周りの先生たちからアドバイスをもらい、子どもとの関わり方を工夫しています。教員みんなが知恵を出し合い、一人ひとりに合った関わり方を模索する教育方法は、私が理想とする社会モデルの実践だと感じています。

福大で思い出深いのは、地域の子どもたちと触れ合う「探求ネットワーク（協働学習支援プロジェクト）」を経験したことです。活動について議論することで意見をはっきり言えるようになり、友人に「変わったね」と驚かれたことも。3年生の時にはリーダーになって、みんなをまとめることにも挑戦しました。大学はさまざまな価値観を持つ人と出会える場所。自分と違う考え方の人を受け入れられるようになったことは今に役立っています。在学中の学生さんも勉強はもちろん遊びも楽しんで、出会いを大切にしてほしい。視野が広がるって、楽しいですから。

実践的な探求ネットワークは自身が成長するきっかけに

教育現場に出ると、いろいろな個性を持つ子どもたちがいて、みんな愛おしい。これから教育者を目指す人は専門的な教諭資格を取得しておくと、子どもの成長に寄り添う上で強みになると思います。私もさらに専門性を磨き、子どもの未来を輝かせられる教員に成長したいです。

My memories

「福井まちかど調査隊」の同期達と。楽しく遊んだり、熱く議論したり…良い思い出がたくさんできました。

興味のある分野で卒論を書き上げました!

学長のアンソロジー

私の好きな音楽と文学

Select No.01

僕が僕であるために

学生の皆さん、こんにちは。このコラムでは、私の好きな音楽や文学を中心に、皆さんと語り合ってみたい作品を紹介したいと思います。

写真は、大学6回生の時に友人Tの下宿で撮影したものです。ずいぶんと気取ったポーズですが、二十代半ばの幸福感と、何ものをも恐れぬ気概が感じられ、懐かしい写真です。当時はいっぱしの文学青年、音楽青年を気取っていました。フランス象徴派の詩人、ポール・ヴァレリーに憧れ、彼のように生きてみたいと真剣に考えていましたし、リヒテルの演奏するバッハ平均律ピアノ曲集を心の糧にしていました。その一方で松田聖子や竹内まりやも大好きでした。

さて、今回は尾崎 豊の『僕が僕であるために』を紹介したいと思います。1983年にリリースされたデビューアルバム『十七歳の地図』の最後に収められた曲です。今日別れる男女を、なぜか明るく爽やかに描いています。尾崎は一番のサビで「僕が僕であるために勝ち続けなきゃならない　正しいものは何なのかそれがこの胸に解るまで　僕は…（中略）…この冷たい街の風に歌い続けてる」*と歌っています。尾崎が一生問い続けたテーマです。この曲が素晴らしいと思うのは、二番のサビで、別れる彼女に向かい、「君が君であるために勝ち続けなきゃならない　正しいものは何なのかそれがこの胸に解るまで　君は…（中略）…この冷たい街の風に歌い続けてる」*と歌いかけているところです。他者に対する尾崎のリスペクトを感じます。

ヘルマン・ヘッセは小説『デミアン』で「人間の使命はおのれに戻ることだ」というテーマを描いていますが、尾崎の音楽にも通じるものがあります。この曲は、「自分とは何だろう?」という問いに誠実に向き合うすべての人間への応援歌だと思います。

学長　内木 宏延

*『僕が僕であるために』（作詞・作曲：尾崎豊）より引用

福井大学基金（羽ばたけ基金®）

ご支援に対し、心より御礼申し上げます。

【福井大学基金の寄附状況】（平成24年5月～令和7年5月）

寄附申込数　9,931件（延べ数）　寄附金総額　8億1,460万4,581円

令和7年2月1日から令和7年5月31日までのご芳名（五十音順）

個人

朝倉　俊行　様
安藤　誠　様
飯田　健一郎　様
鵜飼　智昭　様
衛藤　社司　様
大久保　誠哉　様
太田　好治　様
大橋　祐之　様
岡　哲人　様
落谷　康貴　様
尾原　通正　様
影本　清志　様
梶　良之　様
加藤（辻野）直子　様
川浦　信治　様
川上　英男　様
木村　良三　様
河野　陽子　様
米野　眞一　様
齊藤　衣代　様
齊藤　泰二　様
坂岡　壽美子　様
佐藤　博一　様
白澤　範之　様
新野　秀志　様
高橋　伸夫　様
武澤　哲夫　様
田中　康子　様
徳本　茂　様
戸﨑　道子　様
戸谷　嘉孝　様
冨田　典子　様
内木　宏延　様
中崎　茂樹　様
中島　直也　様
西川　直人　様
西野　佑介　様
野杁　武男　様
長谷川　弘光　様
古里　弘幸　様
細井　俊英　様
堀　康子　様
松浦　周二　様
真鍋　豊　様
峠岡　伸行　様
宮越　勇介　様
宮越　幸歩　様
宮本　礼司　様
籔内　克己　様
山内　信哉　様
山崎　滋孝　様
山田　浩司　様
吉澤　一男　様
吉田　喜代則　様
吉田　満寿子　様
令和6年度医学部看護学科
4年保健師模試委員　様
脇田　慎司　様
和田　清　様
ほか 匿名希望 49名

法人・団体

アートロックサービス　様
アドマイヤー株式会社　様
株式会社ENTLA　様
株式会社オサラキカク　様
株式会社Q.E.D.パートナーズ　様
共同コンピュータ株式会社　様
嵯峨野株式会社　様
株式会社三和電工社　様
医療法人清水内科循環器医院　様
株式会社ジャロック　様
合同会社生活ドクター　様
一般社団法人炭素会計アドバイザー協会　様
株式会社テンポスバスターズ北陸　様
合同会社トップフィールド　様
株式会社ナイガイ　様
株式会社PIEBRU　様
有限会社フードページ　様
福井大学生活協同組合　様
株式会社Penguin　様
北陸マイクロナノプロセス研究会　様
丸文通商株式会社　様
合同会社ムーンベース　様
株式会社ラックコミュニケーションズ　様
合同会社リノベモ　様
株式会社Revive　様
株式会社LIFRELL　様
LiM合同会社　様
有限会社ロハスラボ大阪　様
ほか 匿名希望 2法人・団体

福井大学基金（羽ばたけ基金®）についてはこちらをご覧ください。

福井鋲螺
METAL PARTS INNOVATOR

特殊形状の精密鍛造パーツ及びファスニング製品と省力機器の製造・販売
〒919-0898 福井県あわら市山十楽 1-7　TEL 0776-73-1000

未来を創る可能性の翼になろう

Wings of innovation

Go BEYOND with BYORA

BYORA と共に挑み、超える。

RECRUITING SITE >

Instagram >

Fukudai Press | ふくだいプレス　第54号 | 発行日／2025年8月　発行者／福井大学広報センター　TEL:0776-27-9733　E-mail:sskoho-k@ad.u-fukui.ac.jp